

# 指導資料

鹿児島県総合教育センター  
令和3年4月発行

# 郷土教育 第6号

対象  
校種

小学校 中学校 義務教育学校  
高等学校 特別支援学校



## 郷土鹿児島に誇りをもつ子供たちをどのように育てるか —日本人初のオリンピック連覇 鶴田義行氏の偉業を通して—

鹿児島に誇りをもつ子供たちを育てるために郷土教育をどのように推進すればよいか、競泳200メートル平泳ぎで日本人初のオリンピック連覇の偉業を成し遂げた鶴田義行氏（鹿児島県出身）のエピソードを教材化し、その教材を基に道徳教育の実践例について述べる。

### 1 郷土教育の推進

今回の学習指導要領改訂でも基本方針として「伝統や文化に関する教育」の充実が挙げられた。この教育については、現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容として位置付けられ、総合的な学習（探究）の時間や社会科、地理・歴史科など各教科等で充実に向けた取組を行っていくことになっている。

また、平成31年に策定された鹿児島県教育振興基本計画においても、具体的施策「Ⅱ-⑥ 郷土教育の推進」の中で、「先人の業績や生き方について学ぶ活動などの充実を図る」ことや、「郷土鹿児島に誇りを持ち、未来を担う子どもたちを育てるために、教職員が鹿児島の文化、歴史、伝統等について理解を深め、教育実践がなされるよう、郷土教育に関する教職員の資質向上を図る」ことが記されている（資料1）。

- Ⅱ 未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進
- ⑥ 郷土教育の推進
- 各学校において、郷土芸能や伝統産業を体験する活動や先人の業績や生き方について学ぶ活動などの充実を図り、鹿児島の魅力を語る人材の育成に努めます。
  - 郷土鹿児島に誇りを持ち、未来を担う子どもたちを育てるために、教職員が鹿児島の文化、歴史、伝統等について理解を深め、教育実践がなされるよう、郷土教育に関する教職員の資質向上を図ります。
- (下線は筆者による加筆)

### 2 日本人初のオリンピック連覇 鶴田義行氏とはどのような人物か

郷土鹿児島に誇りを持ち、未来を担う子供たちをどのように育てればよいか。今回の指導資料では、鹿児島県出身の鶴田義行氏の偉業について紹介する。

鶴田義行氏は、鹿児島県鹿児島郡伊敷村（現鹿児島市伊敷）出身の水泳選手であり、日本人初のオリンピック二大会連覇を成し遂げた人物である（写真1）。



写真1 生家に保管されている青年時代の写真（真竹由子氏提供）

第9回アムステルダム大会と第10回ロサンゼルス大会で、競泳200メートル平泳ぎで金メダル獲得という偉業を成し遂げた。以下に略歴を示す（表1）。

表1 略歴（総合教育センターWebサイトより）

	略歴
明治36(1903)年 10月1日	二男として旧伊敷村飯山で誕生。
小学校時代	水泳が苦手だった頃、おぼれたことが契機となり水泳に関心をもつ。
青年時代	鹿児島機関区より佐世保海兵団へ入隊。 軽巡洋艦「由良」の一等機関水兵として勤務。 鶴田の泳ぎを見た艦長が水泳部への入部を命ずる。
大正14(1925)年 10月11日	明治神宮競技大会水泳200m平泳ぎで新記録を樹立して優勝。
昭和3(1928)年 8月8日	第9回アムステルダムオリンピック大会水泳200m平泳ぎで優勝。タイム2分48秒8。競泳種目では、日本人初の金メダリスト。
昭和4(1929)年	明治大学入学。
昭和7(1932)年 8月	第10回ロサンゼルスオリンピック大会水泳200m平泳ぎで優勝。タイム2分45秒4。日本人初のオリンピック連覇。
昭和24(1949)年	愛媛水泳学校を設立。(以後37年間にわたり水泳指導を続ける。教え子約54,000人。)
昭和37(1962)年	紫綬褒章受賞(水泳功労者)。
昭和43(1968)年 12月	国際水泳殿堂入り。
昭和55(1980)年	オリンピックオーダー「銀賞(功労者賞)」受賞。
昭和61(1986)年 7月24日	82歳で永眠。

一回目のアムステルダム大会では、当時の世界記録保持者ラーデマッハー選手(ドイツ)を破り頂点に立った。写真2は、レース後にラーデマッハー選手と握手をした際の写真である。



写真2 アムステルダムオリンピックで優勝した鶴田氏(左)(毎日新聞社撮影, 真竹由子氏提供)

二回目のロサンゼルス大会では、当初日本の小池礼三選手のペースメーカーとして参加した。しかし、大会期間を通じて記録が伸びていき決勝では、小池選手を破り再び頂点に立ったのである。

その後、鶴田義行氏は昭和24年には愛媛水泳学校を設立し、水泳指導にも尽力した。水泳の普及や発展にも功績を残した指導者としての一面も見逃せない。

### 3 鶴田義行氏を題材にした授業をどのように構想できるだろうか

このような鶴田義行氏の業績や生き方について鹿児島の子供たちに紹介することはできないか。鹿児島県教育振興基本計画にある「先人の業績や生き方について学ぶ活動」として、鶴田義行氏を題材にした授業を構想できないだろうか。「先人の業績や生き方について学ぶ活動」は総合的な学習(探究)の時間や社会科、地理歴史科など各教科等を通して実践されることが多いが、道徳教育との関わりも深い。『学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』には、「道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした郷土資料など、多様な教材を併せて活用することが重要である。」と記されている。

また、鹿児島県教育委員会では、これまで「ふるさとの心」や「郷土の先人」、「不屈の心」など郷土に関する資料を刊行し、主に県内の小・中学校では、子供や学校、地域の実態等を考慮しながらこれらの資料を活用してきた。

そこで、学習指導要領の趣旨や鹿児島県内の学校で郷土の先人に関する資料を長年活用してきたことを踏まえ、今回鶴田氏の業績や生き方の一部を参考に読み物教材を作成した。以下から鹿児島県総合教育センター「郷土教育」のWebサイトにアクセスすれば、鶴田氏を題材にした読み物教材をダウンロードできる。

教材は5000字程度の文章であるが、段落ごとに改行しているため、必要に応じて段落ごとに取捨選択できる構成としている。

鹿児島県総合教育センターWeb サイト

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>



『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』には、「スポーツを題材とした教材には、例えば、オリンピックやパラリンピックなどの世界を舞台にして活躍するアスリートやそれを支える人々のチャレンジ精神や力強い生き方、苦悩などに触れて道徳的価値の理解やそれに基づいた自己を見つめる学習を深めるものなどが想定される。」とある。今回の読み物教材を基に内容項目や主題など様々なものを想定することができるが、今回は内容項目を「A希望と勇気、克己と強い意志」とし、主題を「困難を乗り越えて」とした。

目標の実現には困難や失敗を乗り越えることが必要であると実感させるとともに、困難や失敗を乗り越える自分なりの方法について考えさせることが重要であることに気付かせる。そして、挑戦することから逃げずに努力し続ける姿勢が大切であるという態度を育てることをねらいとした実践例を以下に紹介する。

学習指導案の様式は当センター短期研修講座で配布している別冊資料を基に筆者が作成

#### 中学校道徳学習指導案

##### 1 主題名

困難を乗り越えて

##### 2 教材名

「オリンピックを通してつかった水泳の心（総合教育センターWeb サイト掲載資料）」

##### 3 主題について

###### (1) ねらいとする道徳的価値について

A希望と勇気、克己と強い意志

目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を経験することもある。しかし、困難や失敗があっても、それを乗り越え最後までやり遂げようとする強い意志を養うことが大切である。挑戦することから逃げないで努力し続けることが目標実現に近づくことにつながる。

###### (2) 児童生徒の実態

省略

### (3) 教材について

本教材は、主人公が小学校時代、青年時代、選手時代、引退後において、水泳競技や指導に関わるエピソードについてまとめたものである。特にオリンピックアムステルダム大会とロサンゼルス大会の水泳競技について詳細に述べられている。困難や失敗があっても、乗り越え最後までやり遂げようとする主人公の様々な気持ちを考えさせる。

### 4 本時

#### (1) ねらい

鶴田選手が二つの金メダル獲得を通して自らがつかった水泳の心とは何かについて考えさせる活動を通して（学習活動）、目標の実現には困難や失敗を乗り越えることが必要であることに気付かせ（道徳的価値）、挑戦し、努力し続ける姿勢が大切であるという態度を育てる（道徳性）。

#### (2) 本時の実際

過程	主な学習活動 (○ 予想される生徒の反応)
導入	<p>1 これまでに自分の決めた目標を途中で諦めてしまった経験について思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭学習に取り組まない日が続いた。</li> <li>○ 部活動で地道な基礎練習を怠った。</li> </ul> <p>2 学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目標に向けて努力し続けるためには、どんな気持ちや考えが大切だろうか。</p> </div>
展開	<p>3 郷土出身の鶴田義行選手について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本人初のオリンピック二連覇を成し遂げたのは、鹿児島県出身の人なんだ。</li> </ul> <p>4 読み物教材を読み、感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水泳が大好きだったので激しい訓練に耐えて泳ぎが上手になったんだね。</li> <li>○ 自己ベストで金メダルをとるなんて年齢による衰えを根性で克服したんだね。</li> </ul> <p>5 若い選手の練習相手になってほしいと言われた時の鶴田選手の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本の水泳のために自分が役に立ちたいと思ったのだろうか。</li> <li>○ お世話になった会長にお願いされたので断れないな。</li> </ul> <p>6 鶴田さんがつかった「水泳の心」とは何かについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 諦めずに挑戦することにより最後につかむことができるものだと思う。</li> <li>○ 無欲に練習に励むことでつかったのが水泳の心ではないかな。</li> </ul>
終末	<p>7 これまでの自分を振り返り、これからの自分ができることについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 郷土の先輩である鶴田さんのように私も挑戦し続けたい。</li> </ul>

#### (3) 評価

自分が挑戦したときのことを振り返りながら、鶴田選手の気持ちを共感的に考えることができたか。

#### 4 地域に郷土の先人は埋もれていないだろうか

これまで、鶴田氏の経歴や鶴田氏を題材にした道徳の実践例を紹介してきた。水泳選手や指導者として多大なる功績を残した鶴田氏であるが、鹿児島県内での知名度は必ずしも高いとは言えない。一方、指導者として過ごした愛媛県では知られた存在である。鶴田氏は、妻の出身である愛媛県松山市に居住し、愛媛県体育協会の理事や水泳連盟の理事長に就任するなど、愛媛県の水泳界の発展に寄与してきたからである。また、令和元年にはNHK大河ドラマ「いだてん～東京オリンピック噺～」で大東駿介氏が鶴田義行役を演じたり、それに関連してメディアで取り上げられたりしたため、全国での知名度も高まってきていると言える。しかし、筆者としては、鹿児島県で生まれ育ち、鹿児島県の川や海で水泳を学んだ鶴田氏は更に注目を浴びてほしい郷土の人材の一人であると強く感じている。なお、鹿児島市の生家の隣には、鶴田選手の像と石碑が建立されている（写真3）。現地に出向き、鶴田氏の生き様に思いを馳せることも教育活動を進める一助になると考える。



写真3 鹿児島市伊敷八丁目に建立されている鶴田選手の像と石碑

鶴田氏のような人材は、他にいないだろうか、地域に埋もれていないだろうか。鹿児島県は、他に類を見ないほど多彩な文化、歴史、伝統等に恵まれており、学校教育で扱うことが可能な人材や素材が豊富である。

我々教師が改めて地域に目を向け、郷土の先人をはじめ、鹿児島の文化、歴史、伝統等の価値を見いだし、教師の専門性を基に教材化していくことが、郷土鹿児島に誇りをもち、未来を担う子供たちを育てることにつながるのではないだろうか。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』平成30年，教育出版
- 鹿児島県教育委員会『鹿児島県教育振興基本計画』平成31年
- 鹿児島県教育委員会『郷土の先人—中学校道徳—』平成24年
- 鹿児島県教育委員会『続 郷土の先人 不屈の心～中学生用～』平成23年
- (財)日本オリンピック委員会監修『近代オリンピック100年の歩み』1994年，ベースボール・マガジン社
- アマチュア・スポーツ研究会編『写真と記録で見る近代オリンピックと日本栄光の100年全公式記録』1997年，国際文化交流協会
- 南日本新聞社編『郷土の人系 中巻』昭和44年，春苑堂書店
- 日本テレビ『知ってるつもり』1992年7月12日放送
- 愛媛県生涯学習センターWebサイト『愛媛の偉人・賢人の紹介 鶴田義行』  
<https://i-manabi.jp/pdf/museum/124.pdf>  
令和3年3月アクセス
- 鹿児島県総合教育センターWebサイト 郷土教育のページ『甲突川から世界の舞台へ！競泳200m平泳金メダリスト～日本人初のオリンピック連覇～鶴田義行』  
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/curriculum/kyoudo/turudayosiyuki/top.html>  
令和3年3月アクセス

(教科教育研修課 尻無濱 正和)